

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102955
法人名	医療法人 松岡整形外科
事業所名	グループホーム たいさんじ
所在地	愛媛県松山市太山寺町950-7
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 6 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が、共同生活の中でご自身の思いや希望を表現出来るように、感情を自由に出来る環境作りを心がけ、共に過ごし互いに支え合う関係を大切にしています。利用者の方と家族の絆が更に強く深まるように家族と情報の交換・相談・共有をし、協力して一人ひとりの暮らしの支援をしています。地域行事への参加や他事行所との交流など、地域とのつながりを大切にしています。利用者の方の心身状況の変化を見極めて重度化しないよう、迅速に医療従事者へ連絡をし早期治療・対応をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設11年目を迎え勤務歴の長い職員も多く、利用者が安心して穏やかに過ごすことができるように、一人ひとりの思いや人格を尊重しながら、利用者主体のケアを行っている。管理者は利用者の気持ちや行動に寄り添い、利用者と一緒に日常を過ごすことを大切にしており、職員の声かけやケアが事業所の和やかで明るい雰囲気や利用者の笑顔につながっている。家族との関わりも大切にしており、事業所の行事の開催時には家族から参加協力が得られるなど、信頼関係を築いている。母体法人が医療機関のため、日々の健康管理や緊急時の対応など協力体制が構築できており、利用者は安心して過ごすことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームたいさんじ

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 白石かおり

評価完了日 平成 25 年 10 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者と職員で一緒に考え作ったホームの理念を玄関フロアに掲示し、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 地域と関わりながらみんなと一緒に穏やかに元気に暮らしていきたいという思いで、利用者と職員が一緒に考えて理念を作成している。「穏やかに」利用者に安心して過ごしてもらおうように、「元気に」日常の健康管理を大切になどの理念の言葉の中にある意味を、日頃から職員に伝え実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域のお祭りや体育祭に参加している。ホーム近くの歩道の清掃をしている。</p> <p>(外部評価) 事業所周辺の清掃を利用者と一緒に行ったり、散歩時に近隣住民と挨拶をするなど、地域住民と顔なじみになるように努めている。地域の運動会に参加したり、祭りの神輿を見に行くなど地域行事にも積極的に参加している。事業所を開放して開催される「たいさんじまつり」は、多くの地域住民や子供達の参加協力があり、にぎやかな交流の場となっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 母体の病院で介護・福祉・認知症等についての研修を定期的に開催している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 利用者、市介護保険課、地域包括支援センター、民生委 員、他事業所の職員と利用者等の出席があり、日常生活や ホームの状況を報告し、率直な意見をもらいサービスの向 上に活かしている。	参加者と積極的に意見交換が行われているが、さら に、地域住民や駐在所員などに声かけを行い、災害時 の地域との協力体制について話し合ったり、避難訓練 を一緒に行ったりするなど、より一層充実した会議に なるような取組みを期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は利用者、市担当者、地域包括支援センター 職員、民生委員、公民館長、他のグループホーム職員等の 参加を得て開催している。会議は参加者が何でも気軽に話 しやすい和やかな雰囲気になるように事業所のリビングで 開催し、事業所の取組みや課題について話し合われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 課題解決に向けて市介護保険課・地域包括支援センターへ 相談をしている。地域の他事業所の運営推進会議や事業所 連絡会で意見交換相談をし協力関係を築いている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加して情報交換をするほか、 日頃から介護保険や事業所のことなどの連絡や相談を行っ ており協力関係が構築できている。また、地域包括支援セ ンター主催の勉強会へ参加したり、利用者の相談をしたり するなど、地域包括支援センターとの関わりも深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、玄関等の施錠はせず自由に入出入りしている。利用 者の生命保護の為やむをえない場合に限り、家族へ説明・ 相談をし同意を得て行っている。毎月経過観察をし、拘束 解除に向けて取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員全員が身体拘束にあたる行為や弊害を理解できるよう に研修に参加し、話し合いを行っている。利用者の安全面 を考え、やむを得ずベッドからの転落防止のためベッド柵 を使用する場合は、安全に過ごせる様々な工夫を試行錯誤 した上で家族と相談し同意を得ている。身体拘束にあたる 行為が当たり前にならないように経過観察を行い、身体拘 束をしないケアを目指して取り組んでいる。玄関は日中は 開放しており、問題行動のある利用者には職員が付きつい 外に出たり声かけなどを行う対応をしている。言葉づかい も威圧感をあたえないように、常に利用者がどう感じるか を考えて声かけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の身体や言動を観察し、変わった事があれば原因を探り虐待防止に努めている。ミーティングで話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護についての研修を受講し制度の理解に努めている。制度を活用している方はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書・利用契約書等、丁寧に分かりやすく時間をかけて説明をしている。事業所で出来る事・出来ない事、家族にお願ひする事等を明確にし、理解・納得を図っている。退居時も同様に、家族と話し合い理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会・食事会や面会時に意見や要望を聞いている。理事長出席のミーティングで報告をし、運営に活かしている。	
			(外部評価) 家族の訪問時に職員から話しかけ利用者の様子を伝え、意見や要望を言いやすいように努めている。遠方の家族には、状態の変化時の連絡の他に、毎月電話連絡を行い、できる限り利用者とも会話してもらうように心がけている。年1回の家族会の他に、利用者が家族と一緒に外食をする行事があり、家族間の交流が利用者にとっても楽しみな機会となっている。家族から出された意見は、ミーティングで報告し反映するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) ミーティング等での職員の見意見や提案を理事長に報告し検 討をしている。	
			(外部評価) 毎月カンファレンスで職員の見意見や提案を聞く機会を設け ている。管理者は日頃から現場で職員と一緒に勤務してお り、職員が意見や提案をいつでも言える関係を築いてい る。事務長も事業所に来所することが多く、いつも職員に 話しかけるなど安心して働きやすい環境づくりをしてい る。外部研修に参加しやすいよう、できるだけ勤務を調整 して、職員がスキルアップできるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 理事長は、度々ホームへ来て利用者や職員と関わり実績や 勤務状況を把握している。働きやすい勤務ローテーション にしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 職員が希望する研修を受講出来るよう、研修の情報を提供 し勤務の調整を行っている。受講料は事業所が負担してい る。母体病院で定期的に研修を開催し参加出来るようにし ている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域の事業所とイベントや運営推進会議で交流しサービ スの質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 自宅や病室・サービス利用中の事業所を訪問し、生活状況 を把握し、本人との会話や表情・行動から思いを知り関係 作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の生活状況や今までの家族介護の様子やその時の家族の気持ち、入居後はどう暮らしてほしいか、家族間の意向の違い等聞いている。事業所の出来る事出来ない事、家族にお願いする事の説明をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の思いや状況を確認して必要な支援やサービスの提案をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 得意な事や出きる事やりたい事（調理・洗濯・掃除・買い物等）を教えてもらいながら一緒にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 電話連絡や面会時に本人の生活状況や気持ちを報告相談して、一緒に支えていくよう関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 親戚や知り合いの方と交流出来るように面会や外出の声掛けをし環境を整えている。本人の状況を確認し馴染みの場所に出かけている。 (外部評価) 入居前の馴染みの場所や人間関係など、利用者や家族から聞き取り把握するように努めている。知人との電話や手紙のやりとりなど利用者に合わせて支援を行っている。お墓参りの希望がある利用者には、家族の協力を得て出かけるように努めている。利用者の重度化に伴い、生家や馴染みの場所の認識や今までの人間関係の継続が困難となってきた。また、勤務歴が長い職員も多く、新しく職員との馴染みの関係が築かれている利用者も多い。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の相性を把握し、過ごす場所や座席などを考えトラブルにならないようにしている。一緒に過ごして良い雰囲気になるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 転居先には本人の状況を詳しく伝え、連絡を取り合っている。本人や家族に了解を得て面会に行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりとは話をし思いの確認をしている。自己表現の難しい方は、その発言や表情・行動を観察し本人がどうしたいかを考え把握に努めている。 (外部評価) 利用者から思いや希望を聞いたり、生活歴や日々の会話の中からくみ取り把握するように努めている。思いや希望を表現しにくい利用者には、家族から情報を得るなど把握に努めている。新たに知り得た情報は職員全員が把握できるように1枚の様式にまとめており、随時情報を追加して職員間で共有して活用している。自宅にいた時のように、趣味の習字をしたり草花を育てるなど、利用者が今までどおりの楽しみを継続できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 基本情報や看護要約、本人・家族・利用していたサービス事業所から話を聞き、生活歴の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々状態が変わっていく中、今どのような支援が必要か把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人と家族へ暮らしに対する希望や意向を聞き、本人の心身状況と出来る事を見極め、ミーティングでカンファレンスを行いより良い暮らしが出来るようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族から聞き取った意向や要望を反映した介護計画を、利用者毎の担当職員と管理者が相談して作成している。モニタリングは3か月に1回行っているが、毎月ケアカンファレンスで数名ずつの利用者の状態について職員全員で話し合い記録しており、現状に合った介護計画になっているか確認している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 本人の行動・発言・健康状態を小さな事でも気づいた事は個別生活記録や申し送りノートへ記入し、職員間で情報の共有をしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の状況に応じて通院の付き添いや送迎を行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 日常の買物で近所のスーパーに行ったり行事で公園を利用している。消防署・民生委員・包括支援センター・他事業所と相談や意見の交換をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人と家族の意向を確認し、一人ひとりの既往歴・現病歴 を把握しそれぞれに対応したかかりつけ医を受診出来るよ うにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診することがで きる。月2回、協力医の往診があり、状態を把握して健康 管理をしている。緊急時にもすぐに対応できるような協力 体制が取れており、利用者や家族の安心につながってい る。専門医は家族の協力を得て受診することができ、事業 所から利用者の病状や日々の様子を書いたメモを持参し、 状態が詳しく伝わるようにしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日頃の状況を把握し、変化があれば看護師へ報告をしてい る。看護師から主治医やかかりつけ医へ上申し、適切な処 置や受診が出来るようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は、詳しい情報の提供をし病院と連絡を取り合っ ている。度々病室を見舞い退院へ向けての相談をしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居相談時には看取りについての意向を聞いている。本人 の状態変化時は、その都度家族の意向を確認し家族・医 師・管理者で話し合い方針を決め、スタッフ全員に周知し チームでの支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 看取り指針を作成しており、入居時に事業所としてできる ことできないことを明確に家族に説明し、理解を得てい る。今までに看取りの経験はないが、利用者や家族から看 取りの希望があり、事業所の方針に同意を得た場合には取 り組む考えがある。職員は看取りの研修を受けるなど、支 援体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師より日頃から指導を受けて日々のケアで実践している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間や火災・水害を想定した避難訓練を2回以上行っている。近隣の消防署と協力体制を築いている。災害時に備え飲料水等の準備をしている。 (外部評価) 消防署指導の避難訓練のほかにも、水害など様々な災害を想定した訓練を実施している。事業所は2階建てのため、2階の利用者が階段を使って安全にすばやく避難できるように、布団を利用した避難誘導の方法を職員同士で実際に行い確認している。緊急時に確実に避難誘導ができるように訓練を重ね、職員の防災意識を高めている。また、電化製品の漏電防止のため、日頃からコンセント周辺の清掃や確認を行い、火災防止の取組みも徹底して行っている。	事業所では自主的に避難訓練も実施し訓練を重ねていることは評価することができる。職員が少ない夜間帯などに災害が発生した場合には、職員だけの利用者の避難誘導に限界があるため、地域住民の参加協力を得て避難訓練を実施することを望みたい。また、地域住民が負担を感じないで協力できるような具体的な役割などを運営推進会議で話し合い、協力体制を築いていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人に分かりやすい馴染みの言葉掛けや対応を心掛けている。時に声が大きくなりすぎたり口調がきつくなる事がある。ミーティングで言葉掛けや対応について話し合いをしている。 (外部評価) 排泄介助や入浴介助をはじめ、あらゆる場面で利用者のプライバシーや誇りを傷つけないように、目立たないさりげない声かけや利用者の立場に立った対応を心がけている。一人ひとりの人格を理解するように努め、利用者の気持ちを大切に考えて、自己決定しやすいような声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人がどうしたいのか、どう思っているのかじっくり話を聞いている。思いの表室が難しい方は、職員の思い込みにならないように表情や仕草等を注意深く観察し把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 健康状態や意思の確認をしながら、なるべく希望に添うよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着る服を一緒に選び化粧をしおしゃれしている。2ヶ月に1回の訪問理美容で毛染めや好みの髪型にするのを楽しみにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理や盛り付け等、出来る事は利用者と一緒にしている。一人ひとりが食べやすいように刻みやお粥等にしている。また、本人の好き嫌いを把握し、食べられない物は食べられる物に換えている。イベントにはお寿司や赤飯を作っている。 (外部評価) 利用者の希望を聞きながら、ユニット毎に献立を立て職員が調理している。職員と一緒に食卓を囲み、利用者は会話をしながら和やかに食事をしている。利用者は調理の音やにおいを感じながら、調理や片付け等のできることを職員と一緒に手伝っている。おせち料理など季節の献立も取り入れ、利用者にとって食事が楽しみになるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事・水分摂取量が分かるよう表にしている。摂取量の少ない方には必要な量が確保出来るように、本人が食べられる物や食べたい物を提供する等対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨き・うがい・義歯洗浄を行っている。本人がどこまで出来るのかを観察し必要な声掛けや介助をしている。心身状況により、ケアの方法を変更したり時間を置く等対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 本人の気持ちや身体状況に沿った下着を着用している。トイレで排泄出来るように、本人の力を把握し排泄の援助をしている。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、その日の状態も配慮しながら支援をしている。気持ち良くトイレで排泄できるように利用者に合わせた排泄支援を行うことで、失敗が減っている利用者もあり、紙パンツやパット類に頼りすぎないよう取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 乳製品や食物繊維の多い食品や果物を取るようになっている。また、出来るだけ体を動かすようその方に合った運動をするよう心掛けている。便秘時には状況を見ながら処方された薬を服用している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 日中に入浴をしている。入りたくない時は無理強いせず入れる時に入浴の支援をし、体調によっては清拭をしている。</p> <p>(外部評価) 週に2回を基本として入浴することができる。利用者の希望により、毎日入浴できるよう工夫をするなど一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。利用者の重度化に伴い、シャワーチェアなど福祉用具を使用したり職員が2名体制で介助するなど、安心安全に入浴できるように支援している。入浴の苦手な利用者には、声かけを工夫したり時間をおいて対応するなど気持ち良く入浴できるように努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 一人ひとりが安心して居心地の良い席や場所や自室で休んでいる。就寝時に飲み物が入用の方にはベッドサイドに用意をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用、用法や用量を分かりやすくファイルにまとめ理解に努めている。状態の変化時は看護師と医師に報告をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意な家事を一緒にしたり好きな散歩やドライブ・買物へ行っている。演歌や歌謡曲など懐かしい歌を聴いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候にもよるが近くを散歩したりドライブに行き、イベントの花見や外食等に行っている。家族と一緒に墓参りや食事や買物に出かけている。	
			(外部評価) 近くのスーパーへの買い物やドライブ、事業所周辺の散歩など、日常的に外出できるよう支援している。季節ごとに花見や外食をするなど、車いすの利用者も一緒に車で出かけている。また、利用者の希望を聞きながら、外出が楽しみになるように支援している。事業所には広々とした庭があり、利用者は外に出ることで外気浴を楽しめ、気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つ事で安心する方は、家族と相談し少額を持っている。個人のお金を預る時は、現金の預り証を手渡し預かり金出納帳を作成してそのコピーを毎月家族に送り使途内容を報告している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が家族への電話を希望する時は、自ら電話をしたり代わりに電話をかけている。家族からの電話や手紙の取次ぎをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花や飾りをリビングに飾り、生活感や季節感を取り入れている。室温や湿度の調整と換気をしている。</p> <p>(外部評価) 食卓の他にゆったりと座れるソファや畳コーナーがあり、利用者は思い思いの場所でゆっくり過ごすことができる。明るいうリビングからは直接庭に出ることができ、田園風景を眺めるながらくつろいでいる。夏に室温が上がりすぎないように各トイレに扇風機を設置したり、冬には入浴後の温度差が大きくなるないように浴室の脱衣所に暖房器具を置くなど、空調にも配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビング・和室・食卓・玄関ポーチ等、一人ひとりの落ち着く場所があり、思い思いに過ごしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人・家族と相談し使い慣れた物や思い出の品を置き落ち着いて過ごせるようにしている。物がある事で混乱する方は必要な家具のみの配置にしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、タンス、大きめの収納、洗面台が備えつけられている。居室には使い慣れた家具などを持ち込むことができ、写真や供花を飾って毎日拝めるようなスペースを作ったり、趣味の草花を置いて育てたりして、利用者の居心地の良い好みの居室になるように配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者の目線に合わせた高さに名札を付けて、自室やトイレが分かるようにしている。自室は、本人が安全に動けるように家具の配置をしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102955
法人名	医療法人 松岡整形外科
事業所名	グループホーム たいさんじ
所在地	愛媛県松山市太山寺町950-7
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 6 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が、共同生活の中でご自身の思いや希望を表現出来るように、感情を自由に出来る環境作りを心がけ、共に過ごし互いに支え合う関係を大切にしています。利用者の方と家族の絆が更に強く深くなるように家族と情報の交換・相談・共有をし、協力して一人ひとりの暮らしの支援をしています。地域行事への参加や他事業所との交流など、地域とのつながりを大切にしています。利用者の方の心身状況の変化を見極めて重度化しないよう、迅速に医療従事者へ連絡をし早期治療・対応をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設11年目を迎え勤務歴の長い職員も多く、利用者が安心して穏やかに過ごすことができるように、一人ひとりの思いや人格を尊重しながら、利用者主体のケアを行っている。管理者は利用者の気持ちや行動に寄り添い、利用者と一緒に日常を過ごすことを大切にしており、職員の声かけやケアが事業所の和やかで明るい雰囲気や利用者の笑顔につながっている。家族との関わりも大切にしており、事業所の行事の開催時には家族から参加協力が得られるなど、信頼関係を築いている。母体法人が医療機関のため、日々の健康管理や緊急時の対応など協力体制が構築できており、利用者は安心して過ごすことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームたいさんじ

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 平岡 明美

評価完了日 平成 25 年 10 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者と職員で一緒に考え作ったホームの理念を玄関フロアに掲示し、実践につなげている。	
			(外部評価) 地域と関わりながらみんなと一緒に穏やかに元気に暮らしていきたいという思いで、利用者と職員が一緒に考えて理念を作成している。「穏やかに」利用者に安心して過ごしてもらうように、「元気に」日常の健康管理を大切になどの理念の言葉の中にある意味を、日頃から職員に伝え実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域のお祭りや体育祭に参加している。ホーム近くの歩道の清掃をしている。	
			(外部評価) 事業所周辺の清掃を利用者と一緒に行ったり、散歩時に近隣住民と挨拶をするなど、地域住民と顔なじみになるように努めている。地域の運動会に参加したり、祭りの神輿を見に行くなど地域行事にも積極的に参加している。事業所を開放して開催される「たいさんじまつり」は、多くの地域住民や子供達の参加協力があり、にぎやかな交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 母体の病院で介護・福祉・認知症等についての研修を定期的に開催している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 利用者、市介護保険課、地域包括支援センター、民生委員、他事業所の職員と利用者等の出席があり、日常生活やホームの状況を報告し、率直な意見をもらいサービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者、市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、公民館長、他のグループホーム職員等の参加を得て開催している。会議は参加者が何でも気軽に話しやすい和やかな雰囲気になるように事業所のリビングで開催し、事業所の取組みや課題について話し合われている。</p>	<p>参加者と積極的に意見交換が行われているが、さらに、地域住民や駐在所員などに声かけを行い、災害時の地域との協力体制について話し合ったり、避難訓練を一緒に行ったりするなど、より一層充実した会議になるような取組みを期待したい。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 課題解決に向けて市介護保険課・地域包括支援センターへ相談をしている。地域の他事業所の運営推進会議や事業所連絡会で意見交換相談をし協力関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加して情報交換をするほか、日頃から介護保険や事業所のことなどの連絡や相談を行っており協力関係が構築できている。また、地域包括支援センター主催の勉強会へ参加したり、利用者の相談をしたりするなど、地域包括支援センターとの関わりも深めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 日中は、玄関等の施錠はせず自由に入出入りしている。利用者の生命保護の為やむをえない場合の限り、家族へ説明・相談をし同意を得て行っている。毎月経過観察をし、拘束解除に向けて取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 職員全員が身体拘束にあたる行為や弊害を理解できるように研修に参加し、話し合いを行っている。利用者の安全面を考え、やむを得ずベッドからの転落防止のためベッド柵を使用する場合は、安全に過ごせる様々な工夫を試行錯誤した上で家族と相談し同意を得ている。身体拘束にあたる行為が当たり前にならないように経過観察を行い、身体拘束をしないケアを目指して取り組んでいる。玄関は日中は開放しており、問題行動のある利用者には職員が付き合い外に出たり声かけなどを行う対応をしている。言葉づかいも威圧感をあたえないように、常に利用者がどう感じるかを考えて声かけを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の身体や言動を観察し、変わった事があれば原因を探り虐待防止に努めている。ミーティングで話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護についての研修を受講し制度の理解に努めている。制度を活用している方はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書・利用契約書等、丁寧に分かりやすく時間をかけて説明をしている。事業所で出来る事・出来ない事、家族にお願いする事等を明確にし、理解・納得を図っている。退居時も同様に、家族と話し合い理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会・食事会や面会時に意見や要望を聞いている。理事長出席のミーティングで報告をし、運営に活かしている。	
			(外部評価) 家族の訪問時に職員から話しかけ利用者の様子を伝え、意見や要望を言いやすいように努めている。遠方の家族には、状態の変化時の連絡の他に、毎月電話連絡を行い、できる限り利用者とも会話してもらうように心がけている。年1回の家族会の他に、利用者が家族と一緒に外食をする行事があり、家族間の交流が利用者にとっても楽しみな機会となっている。家族から出された意見は、ミーティングで報告し反映するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) ミーティング等での職員の見や提案を理事長に報告し検 討をしている。	
			(外部評価) 毎月カンファレンスで職員の見や提案を聞く機会を設け ている。管理者は日頃から現場で職員と一緒に勤務してお り、職員が意見や提案をいつでも言える関係を築いてい る。事務長も事業所に来所することが多く、いつも職員に 話しかけるなど安心して働きやすい環境づくりをしてい る。外部研修に参加しやすいよう、できるだけ勤務を調整 して、職員がスキルアップできるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 理事長は、度々ホームへ来て利用者や職員と関わり実績や 勤務状況を把握している。働きやすい勤務ローテーション にしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 職員が希望する研修を受講出来るよう、研修の情報を提供 し勤務の調整を行っている。受講料は事業所が負担してい る。母体病院で定期的に研修を開催し参加出来るようにし ている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域の事業所とイベントや運営推進会議で交流しサービ スの質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 自宅や病室・サービス利用中の事業所を訪問し、生活状況 を把握し、本人との会話や表情・行動から思いを知り関係 作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の生活状況や今までの家族介護の様子やその時の家族の気持ち、入居後はどう暮してほしいか、家族間の意向の違い等聞いている。事業所の出来る事出来ない事、家族にお願いする事の説明をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の思いや状況を確認して必要な支援やサービスの提案をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で料理や掃除・洗濯物たたみ等の出来る事を協力して行い、共に暮している関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族訪問時や電話連絡等で、本人の状況や体調・気持ちを報告して、本人と家族の絆を大切にしながら共に支えていく関係作りをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 親戚や知り合いの方と交流出来るように面会や外出の声掛けをし環境を整えている。本人の状況を確認し馴染みの場所に出かけている。 (外部評価) 入居前の馴染みの場所や人間関係など、利用者や家族から聞き取り把握するように努めている。知人との電話や手紙のやりとりなど利用者に合わせて支援を行っている。お墓参りの希望がある利用者には、家族の協力を得て出かけるように努めている。利用者の重度化に伴い、生家や馴染みの場所の認識や今までの人間関係の継続が困難となってきた。また、勤務歴が長い職員も多く、新しく職員との馴染みの関係が築かれている利用者も多い。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの個性や性格、合性等を把握して、利用者同士と一緒に過ごせるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 転居先には本人の状況を詳しく伝え、連絡を取り合っている。本人や家族の理解を得て面会に行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりとは話をし思いの確認をしている。自己表現の難しい方は、その発言や表情・行動を観察し本人がどうしたいかを考え把握に努めている。 (外部評価) 利用者から思いや希望を聞いたり、生活歴や日々の会話の中からくみ取り把握するように努めている。思いや希望を表わしにくい利用者には、家族から情報を得るなど把握に努めている。新たに知り得た情報は職員全員が把握できるように1枚の様式にまとめており、随時情報を追加して職員間で共有して活用している。自宅にいた時のように、趣味の習字をしたり草花を育てるなど、利用者が今までどおりの楽しみを継続できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 基本情報や看護要約・本人・家族・利用していたサービス事業所から話を聞き、生活歴の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの一日の過ごし方を把握しているが、状態が日々変わっている。本人の状況や状態に合わせて、どのような支援が必要なのか把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人と家族へ暮らしに対する希望や意向を聞き、本人の心身状況と出来る事を見極め、ミーティングでカンファレンスを行いより良い暮らしが出来るようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族から聞き取った意向や要望を反映した介護計画を、利用者毎の担当職員と管理者が相談して作成している。モニタリングは3か月に1回行っているが、毎月ケアカンファレンスで数名ずつの利用者の状態について職員全員で話し合い記録しており、現状に合った介護計画になっているか確認している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 本人の行動・発言・健康状態を小さな事でも気づいた事は個別生活記録や申し送りノートへ記入し、職員間で情報の共有をしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の状況に応じて通院の付き添いや送迎を行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 日常の買物で近所のスーパーに行ったり行事で公園を利用している。消防署・民生委員・包括支援センター・他事業所と相談や意見の交換をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人と家族の意向を確認し、一人ひとりの既往歴・現病歴 を把握しそれぞれに対応したかかりつけ医を受診出来るよ うにしている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診することがで きる。月2回、協力医の往診があり、状態を把握して健康 管理をしている。緊急時にもすぐに対応できるような協力 体制が取れており、利用者や家族の安心につながってい る。専門医は家族の協力を得て受診することができ、事業 所から利用者の病状や日々の様子を書いたメモを持参し、 状態が詳しく伝わるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日頃の状況を把握し、変化があれば看護師へ報告をしてい る。看護師から主治医やかかりつけ医へ上申し、適切な処 置や受診が出来るようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、詳しい情報の提供をし病院と連絡を取り合っ ている。度々病室を見舞い退院へ向けての相談をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居相談時には看取りについての意向を聞いている。本人 の状態変化時は、その都度家族の意向を確認し家族・医 師・管理者で話し合い方針を決め、スタッフ全員に周知し チームでの支援に取り組んでいる。 (外部評価) 看取り指針を作成しており、入居時に事業所としてでき ることできないことを明確に家族に説明し、理解を得てい る。今までに看取りの経験はないが、利用者や家族から看 取りの希望があり、事業所の方針に同意を得た場合には取 り組む考えがある。職員は看取りの研修を受けるなど、支 援体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師より日頃から指導を受けて日々のケアで実践している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間や火災・水害を想定した避難訓練を2回以上行っている。近隣の消防署と協力体制を築いている。災害時に備え飲料水等の準備をしている。 (外部評価) 消防署指導の避難訓練のほかにも、水害など様々な災害を想定した訓練を実施している。事業所は2階建てのため、2階の利用者が階段を使って安全にすばやく避難できるように、布団を利用した避難誘導の方法を職員同士で実際に行い確認している。緊急時に確実に避難誘導ができるように訓練を重ね、職員の防災意識を高めている。また、電化製品の漏電防止のため、日頃からコンセント周辺の清掃や確認を行い、火災防止の取組みも徹底して行っている。	事業所では自主的に避難訓練も実施し訓練を重ねていることは評価することができる。職員が少ない夜間帯などに災害が発生した場合には、職員だけの利用者の避難誘導に限界があるため、地域住民の参加協力を得て避難訓練を実施することを望みたい。また、地域住民が負担を感じないで協力できるような具体的な役割などを運営推進会議で話し合い、協力体制を築いていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人に分かりやすい馴染みの言葉掛けや対応を心掛けている。時に声が大きくなり過ぎたり口調がきつくなる事がある。ミーティングで言葉掛けや対応について話し合いをしている。 (外部評価) 排泄介助や入浴介助をはじめ、あらゆる場面で利用者のプライバシーや誇りを傷つけないように、目立たないさりげない声かけや利用者の立場に立った対応を心がけている。一人ひとりの人格を理解するように努め、利用者の気持ちを大切に考えて、自己決定しやすいような声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 選択できる場面では、本人に選んでもらったり希望を聞くように勤めている。本人からの言葉が出やすいように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 急がせる事のないように働きかけている。一人ひとりのペースを把握し、その人の意向にそって支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服の乱れを整え、女性は化粧をする等のおしゃれをしている。2ヶ月に1回の訪問理美容で本人が希望する髪型をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理や盛り付け等、出来る事は利用者と一緒にしている。一人ひとりが食べやすいように刻みやお粥等にしている。また、本人の好き嫌いを把握し、食べられない物は食べられる物に換えている。イベントにはお寿司や赤飯を作っている。 (外部評価) 利用者の希望を聞きながら、ユニット毎に献立を立て職員が調理している。職員と一緒に食卓を囲み、利用者は会話を楽しみながら和やかに食事をしている。利用者は調理の音やにおいを感じながら、調理や片付け等のできることを職員と一緒に手伝っている。おせち料理など季節の献立も取り入れ、利用者にとって食事が楽しみになるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事・水分の摂取量が分かるよう表にしている。摂取量の少ない方には、必要な量が確保できるように、本人が食べられる物や食べたい物を提供する等対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、歯磨き・義歯洗浄をしている。出来ない方には介助で行っている。口腔ケアが難しい方は、訪問歯科医に相談しその人に合った方法で行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 本人の気持ちや身体状況に沿った下着を着用している。トイレで排泄ができるように、本人の力を把握し排泄の援助をしている。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、その日の状態も配慮しながら支援をしている。気持ち良くトイレで排泄できるように利用者に合わせた排泄支援を行うことで、失敗が減っている利用者もおり、紙パンツやパット類に頼りすぎないように取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 乳製品や食物繊維の多い食品や果物を取るようになっている。また、出来るだけ体を動かすようその方にあった運動をするよう心掛けている。便秘時には状況を見ながら処方された薬を服用している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 日中に入浴をしている。入りたくない時は無理強いせず入れる時に入浴の支援をし、体調によっては清拭をしている。</p> <p>(外部評価) 週に2回を基本として入浴することができる。利用者の希望により、毎日入浴できるよう工夫をするなど一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。利用者の重度化に伴い、シャワーチェアなど福祉用具を使用したり職員が2名体制で介助するなど、安心安全に入浴できるように支援している。入浴の苦手な利用者には、声かけを工夫したり時間をおいて対応するなど気持ち良く入浴できるように努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) その方の心身状況や体調を見ながら、自室やリビングで休んでいる。部屋の明るさや温度・寝具の硬さ重さに注意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用、用法や用量を分かりやすくファイルにまとめ、理解に努めている。状態の変化時は看護師と医師に報告をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意な家事を一緒にしたり好きな散歩や花への水やりをしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候にもよるが近くを散歩したりドライブに行き、イベントの花見や外食等に行っている。家族と一緒に墓参りや食事に出かけている。	
			(外部評価) 近くのスーパーへの買い物やドライブ、事業所周辺の散歩など、日常的に外出できるよう支援している。季節ごとに花見や外食をするなど、車いすの利用者も一緒に車で出かけている。また、利用者の希望を聞きながら、外出が楽しみになるように支援している。事業所には広々とした庭があり、利用者は外に出ることで外気浴を楽しめ、気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことで安心する方は、家族と相談し少額を持ち職員は毎日確認をしている。個人のお金を預かる時は、現金の預かり証を手渡し預かり金出納帳を作成してそのコピーを毎月家族に送り用途内容を報告している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が家族への連絡を希望する時は代わりに電話をかけ本人の希望を伝えている。直接話したい時は本人に代わっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者と一緒に観葉植物を育て季節の花や飾りを作ってリビングに飾り、生活観や季節感を取り入れている。室温や湿度の調整と換気をしている。</p> <p>(外部評価) 食卓の他にゆったりと座れるソファや畳コーナーがあり、利用者は思い思いの場所でゆっくり過ごすことができる。明るいうリビングからは直接庭に出ることができ、田園風景を眺めるながらくつろいでいる。夏に室温が上がりすぎないように各トイレに扇風機を設置したり、冬には入浴後の温度差が大きくなるように浴室の脱衣所に暖房器具を置くなど、空調にも配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 一人ひとりが居心地の良い場所で思い思いに過ごし、気の合う物同士が話をしテレビを見ている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人と家族と相談をし使い慣れた物や思い出の品を置き落ち着いて過ごせるようにしている。物がある事で混乱する方は必要な家具のみの配置にしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、タンス、大きめの収納、洗面台が備えつけられている。居室には使い慣れた家具などを持ち込むことができ、写真や供花を飾って毎日拝めるようなスペースを作ったり、趣味の草花を置いて育てたりして、利用者の居心地の良い好みの居室になるように配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者の目線に合わせた高さに名札を付けて、自室やトイレが分かるようにしている。自室は、本人が安全に動けるように家具の配置をしている。</p>	